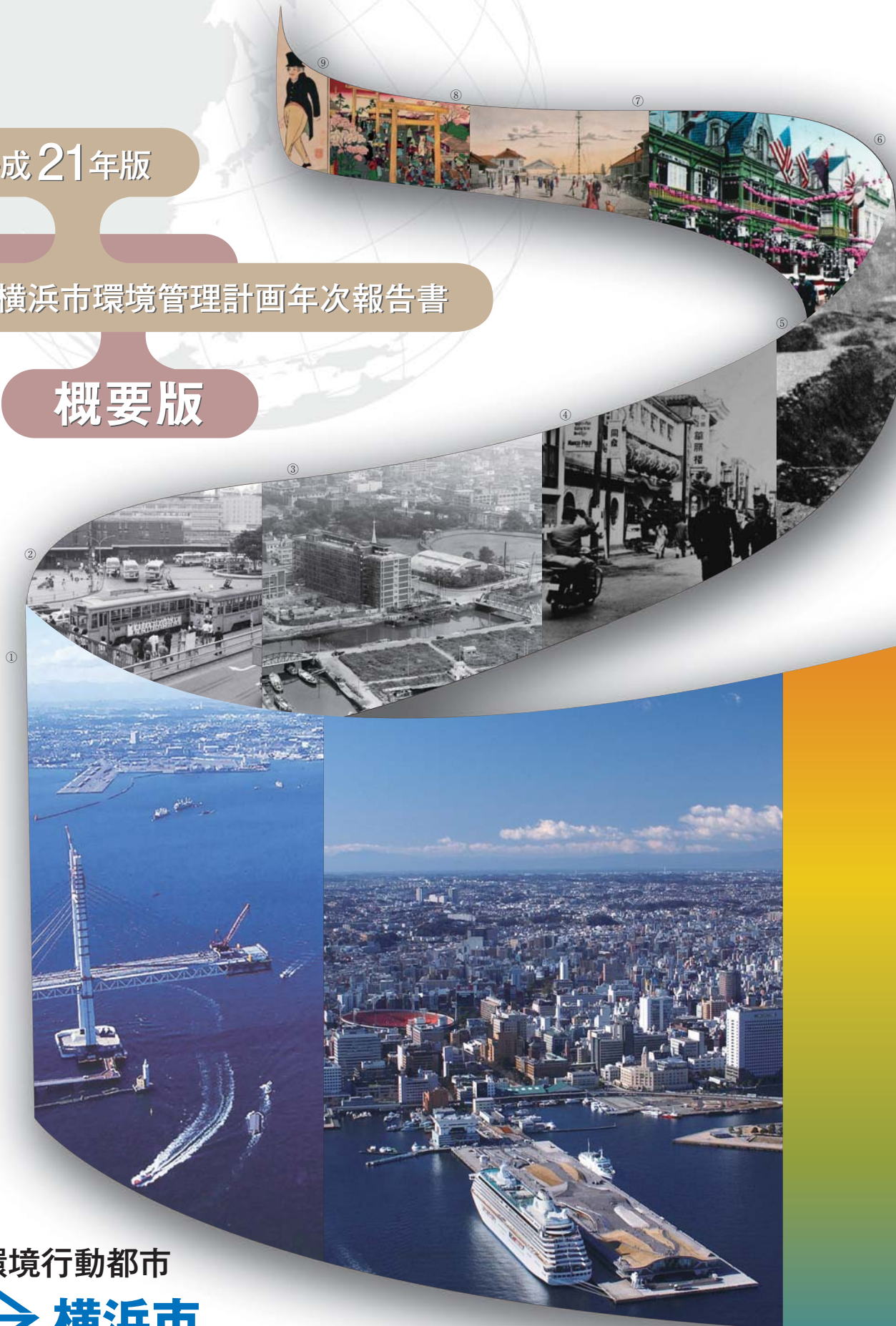


横浜の環境

平成21年版

横浜市環境管理計画年次報告書

概要版



環境行動都市

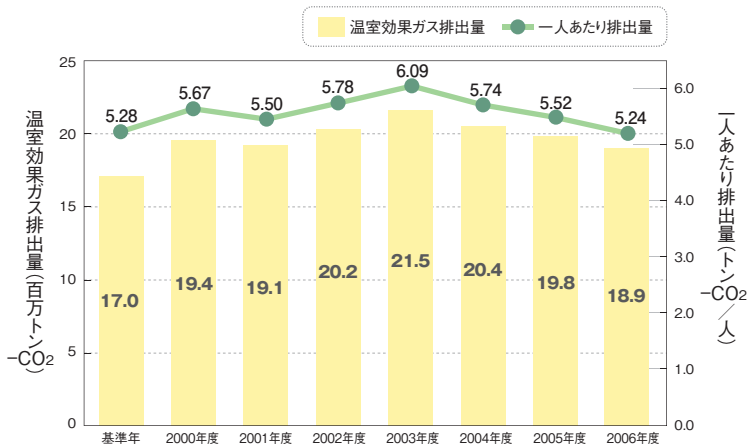


地球温暖化対策の推進

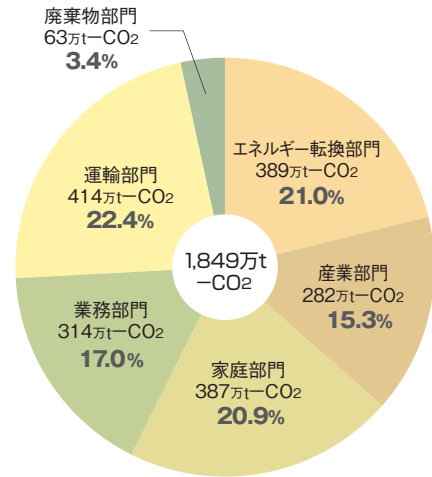
地球温暖化の現状と防止の施策

横浜市は、「環境モデル都市・横浜」として、人類共通の課題である地球温暖化問題に対して「横浜市脱温暖化行動方針(CO-DO30)」や「横浜市地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、市民・事業者・行政が協働して温室効果ガスの排出量削減に取り組んでいます。

横浜市内の平成18(2006)年度の温室効果ガス排出量は、二酸化炭素換算で約1,889万トン-CO₂(全国の1.4%に相当)で、京都議定書の規定による基準年(1990年度)比で11.1%増加しています。一人あたりの排出量は5.24トン-CO₂であり、基準年比で0.7%減少しています。



横浜市の温室効果ガス排出量の推移



横浜市の二酸化炭素排出量の構成比(平成18(2006)年度)

八都県市地球温暖化防止一斉行動「エコウェーブ」

みなとみらい21地区で市民や企業の協力を得て一斉消灯「セタライトダウン」を行いました。



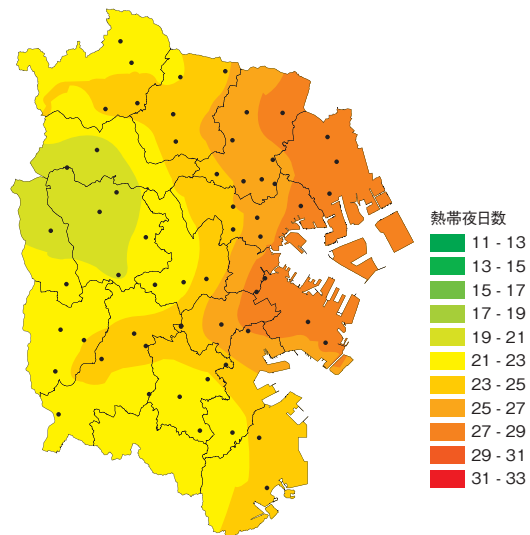
消灯前



消灯後

ヒートアイランド対策

ヒートアイランド現象とは、都市の中心部の気温が郊外部に比べて島状に高くなる現象で、平成15年度の調査から、横浜市においてもヒートアイランド現象が生じていることが確認されています。市内で生じているヒートアイランド現象緩和のため、地域特性に合わせた取組や、具体的な手法等を定めた「横浜市ヒートアイランド対策アクションプラン」を策定し、総合的な対策を効果的に進めています。





エネルギーの効率的な利用

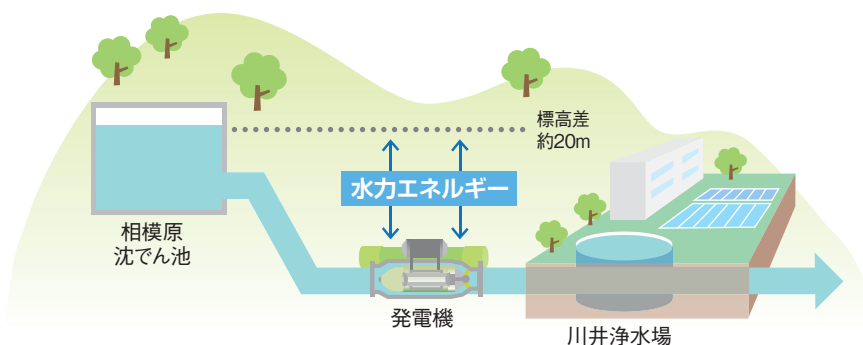
低炭素社会実現のため、様々な省エネルギー、新エネルギーの導入を促進しています。

■ ハマウイング(横浜市風力発電所)

「ハマ債風車(かざぐるま)」の発行による市民参加と「Y(ワイ)-グリーンパートナー」としての企業協賛により、市民、事業者、行政の3者が協働で取り組み、横浜市の環境行動のシンボルの事業として進められ、平成20年度の売電量は約200万kWhでした。



■ 水道管内に流れる水の力を利用した小水力発電

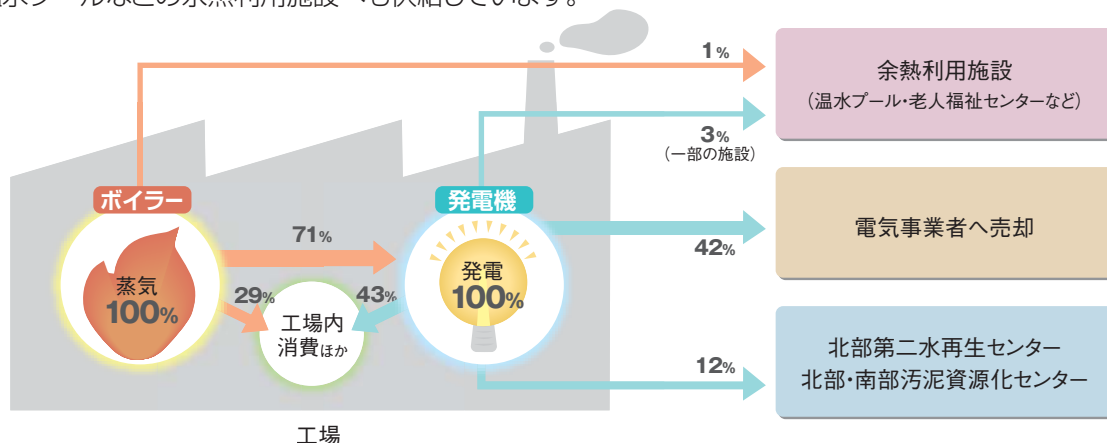


沈でん池から浄水場までの標高の差を利用した小水力発電を行っています。

稼働時期	設置場所
平成18年度	港北配水池
平成21年度末(予定)	川井浄水場
平成22年度末(予定)	青山沈澱池

■ ごみ焼却工場における廃棄物発電及び熱利用

ごみ焼却に伴い発生する蒸気で発電を行い、電力を余熱利用施設、水再生センターや汚泥資源化センターなどへ供給するほか、電気事業者への売却を行います。また、蒸気を工場内の機器や冷暖房に利用し、温水プールなどの余熱利用施設へも供給しています。



※端数処理のため、図中の合計が100%にならない場合があります。